

平成28年度工学部・工学研究科自己点検評価書

項目	取組内容（成果、課題など）	根拠資料	工学部・研究科の取り組みを示すポムチ絵（公表用1枚）
<p>基準4 学生の受入</p> <p>4-1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、それに沿って、適切な学生の受入が実施されていること。</p> <p>4-2 実入学者数が入学定員と比較して適正な数となっていること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学者受入方針を工学部案内パンフレットやプレゼンテーション資料に組み入れている。</li> <li>平成25年度の4学科への改組さらに平成26年度から個別試験に英語を導入した。平成28年度実施（平成29年度入試）の志願者数は、前年度に比べ360人減少した。なお平成29年度入試の入学者数は516名で定員の1.01倍である。</li> <li>自然科学技術研究科（平成29年度入試）の入学者数は441名で入学定員（375名）を満たし、入学定員の1.18倍と適正な数になっている。</li> <li>博士後期課程（平成29年度入試）の入学者数は27名で入学定員（27名）を満たし、前年度の0.37倍から改善された。</li> </ul>	<p>入試資料（資料1）</p>	
<p>基準5 教育内容及び方法</p> <p>5-2 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。（学士課程）</p> <p>5-5 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等（研究・論文指導を含む。）が整備されていること。（大学院課程）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学部専属の英語教員を採用し、その教員による専門分野ごとに適した英語科目を実施した。</li> <li>海外を含めたインターシップを積極的に推進させた。（平成28年度、学部生35名、大学院生74名）</li> <li>グローバル化に向けた短期留学制度を継続（平成28年度、短期留学37名）し、留学生向けには、グローバル・インターシップを行っている。</li> <li>TOEIC対策の授業（前期：1-3年生対象、後期：3年生対象）を開講している。卒業のための単位とはならないものの、受講生40名ほどで出席率も高かった。</li> <li>平成25年度発足の学科・コースの初めての卒業論文発表会が開催された。コースごとに発表形式や学生表彰対象学生を選ぶ統一的な方式が導入された。</li> <li>アクティブラーニングも取り入れた工学教育を実施している。</li> </ul>	<p>英語科目シラバス（資料2）</p> <p>短期派遣参加者リスト（資料3）</p> <p>卒論発表会（資料4）</p> <p>工学教育（資料5）</p>	
<p>基準6 学習成果</p> <p>6-1 教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。</p> <p>6-2 卒業（修了）後の進路状況等から判断して、学習成果が上がっていること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業評価アンケートを実施し、学生の学習時間、学習態度を把握し、その集計結果をGグループで開示した。</li> <li>工学部卒業生の約60%が修士課程へ進学した。</li> <li>平成27年度春発足の博士前期課程 GU-GLEE を修了した学生6名のうち、2名が博士課程に進学、4名が就職した。</li> <li>博士前期課程修了者の約8割が建設業・製造業等で職を得ている。また、OB、OG等による求人活動が活発に行われ、社会が求める人材を輩出している。</li> </ul>	<p>授業評価結果（資料6）</p> <p>卒業・修了時調査結果（資料7）</p>	
<p>基準8 教育の内部質保証システム</p> <p>8-1 【重点評価項目】教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され、機能していること。</p> <p>8-2 教員、教育支援者及び教育補助者に対する研修等、教育の質の改善・向上を図るための取組が適切に行われ、機能していること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リフレクションペーパーを教務委員会で開示し、全教員が授業改善の工夫を共有した。</li> <li>卒業（修了）時の置き手紙から、在学時に感じた学生の意見・提案を把握し、質の改善・向上を図っている。</li> <li>平成28年7月13日（水）に障がい学生の修学支援に関するFDを開催した。 演題：植込みデバイスの電磁干渉について 参加者：84名（教員78名、事務6名）</li> <li>平成28年12月14日（水）に情報に関するFDを開催した。 演題：情報管理の徹底について～情報セキュリティと個人情報保護のためのFD研修会～ 参加者：86名（教員76名、事務10名）</li> </ul>	<p>リフレクションペーパー（資料8）</p> <p>置き手紙（資料9）</p> <p>FD資料（資料10）</p>	

# 工学部・工学研究科の取り組み

世界で活躍

基礎学力、対話力  
深い専門知識など

地域に貢献

博士課程発足へ

自然科学技術研究科

教育推進・学生支援機構  
(学生受入部門)

教学IRデータセット

基準4 学生の受入

- 志願者推移
- 入試結果分析
- 入学定員の検証
- 入試に関する施策

入試委員会

博士後期学生

学生定員: 27名  
入学者数: 10名(H28)から  
27名(H29)へ

人材輩出

博士前期学生

学生定員: 275名  
入学者数: 定員の1.1-1.3倍

工学部学部生

学生定員: 510名  
競争率: 低下

成長・成熟を見守り支援する

教授会・研究科委員会

GU-GLEE:

博士課程への高い進学率

基準5、6、8

- 短期留学支援
- TOEIC対策
- 卒業研究
- アクティブラーニング
- 授業評価アンケート
- リフレクション  
ペーパー
- 置き手紙
- FD研修会



教務委員会